

中国の「ビッグヒロイン・ドラマ」に関する一考察

—女性表象の変容と物語構造を中心に—

RU Yi

本論文は、女性表象の変容と物語構造の視点から、2011 年から中国で流行している「ビッグヒロイン・ドラマ」の挑戦と限界を考察して中国の文脈で読み解くことを目的とする。

「ビッグヒロイン・ドラマ」は女性を物語の中心にして、女性主人公が様々な挫折を経験したことを通して成長している過程を描くドラマであると定義される。作品の中で、男性の登場人物は女性主人公を支える彼女の引き立て役であり、その多くは女性主人公を愛している。女性主人公は最後に権力や業界のトップになったり、大願が成就したり、リベンジしたりしたとして描かれている。

2011 年以降、伝統的な女性像とは完全に変わって「ビッグヒロイン」と呼ばれる新しい女性像が出現し続けた。それに伴い、女性を主人公にして女性成長の物語を描き続けたドラマは、やがて「ビッグヒロイン・ドラマ」と呼ばれるようになった。「ビッグヒロイン・ドラマ」は一つのサブジャンルとして形成され、大人気のドラマコンテンツとして中国で認識されている一方、「ビッグヒロイン・ドラマ」に対する批判が徐々に増加しているという傾向が見られる。その現象に対して、「ビッグヒロイン・ドラマ」が登場し始めた初段階に新しい女性像で高く評価されたにもかかわらず、次第に社会的評価が下がり、視聴者に飽きられてきたのはなぜか、という問いが生じた。

このような問いに取り組むために、はじめに、中国テレビドラマの歴史と中国ドラマジャンルの展開を概観することで、「ビッグヒロイン・ドラマ」を位置付けた。また、「ビッグヒロイン・ドラマ」の発展と登場を論じ、「ビッグヒロイン・ドラマ」に対する評価を整理した上で、「ビッグヒロイン・ドラマ」の帰する所が「メアリー・スー化」の「青春アイドルドラマ」(日本のトレンドドラマに基づいてローカルしたドラマジャンル)の延長戦上にあると言えるのか、という仮説を立てた。さらに、表象分析と物語構造分析という2つのアプローチから「ビッグヒロイン」の挑戦と限界を考察した。表象分析では、中国ドラマにおける従来の女性主人公の表象を把握した上で、34 作品を研究対象として分析要素ごとに「ビッグヒロイン」の表象分析を行った。そして、比較することで女性表象の変容を明らかにした。物語構造分析では、物語構造分析の先行研究の方法を援用し、7 作品を研究対象として典型的な物語構造を抽出した。「青春アイドルドラマ」の物語構造と比較することで仮説を検証した。

分析結果として、第一に、「ビッグヒロイン」の表象はある程度従来の女性主人公の表象を突破したが、完全にその領域から出ていないことが明らかになった。「ビッグヒロイン」の表象の主要な特徴として、「女らしさ」と「男らしさ」の混合であり、二重人格を背負う女性表象である。一方で、「ビッグヒロイン」の表象は伝統的な「良妻賢母」と違い、容姿も能力もよく、独立した人格を持って自立し、男性のように活動する女性表象へ変容したのである。他方で、優秀が行き過ぎて男性の力に頼って成長するように描かれているため、「メアリー・スー化」という傾向が見られる。また、母・妻という社会的役割を負わされる「ビッグヒロイン」は依然として男性の下位に位置づけられたものである。さらに、「ビッグヒロイン」は利己的な情愛と無私の母性愛に執着して愛に自立を捧げ、依然として「シンデレラ・コンプレクス」に陥っているのである。第二に、「ビッグヒロイン・ドラマ」の帰する所が「メアリー・スー化」の「青春アイドルドラマ」の延長戦上にあると結論づけることができた。「ビッグヒロイン・ドラマ」は恋のストーリーラインが「青春アイドル・ドラマ」のパターンを採用し、その上で、女性成長のストーリーラインを追加するものだからである。また、現代劇の「ビッグヒロイン・ドラマ」のほうは「ビッグヒロイン」の恋愛より、成長過程を着目するという傾向が見られる。

最後に、上述の「ビッグヒロイン・ドラマ」の挑戦と限界を中国の文脈で読み解いた。挑戦に成功した理由について、まず、労働参加率や就学率、進学率の上昇による現代多くの中国人女性は経済的自立や人格の独立が達成できて、「彼女経済」の登場と発展による女性視聴者がドラマ市場で重要な地位を占めているため、「ビッグヒロイン・ドラマ」は中国人女性の需要に迎合するのが当然のことであると考えられる。また、「ビッグヒロイン・ドラマ」の小説原作の作家のほとんどが高学歴の優秀な女性であるので、彼女たちが作った「ビッグヒロイン」は現代的な価値観を持つ有能な女性として描かれてもおかしくないといえる。限界が出た理由について、第一に、「男性本位」から出発して形成された評価基準で女性が評価されている中国の男性中心社会の限界である。第二に、原作の女性作家は創作中に無意識的にキャラクターに自己投影することである。第三に、中国女性解放運動の限界によって伝統的なジェンダー秩序は中国人女性の潜在意識の中に根強く残っていることである。最後に、家庭において社会において多くの負担を押し付けられている中国人女性は「ビッグヒロイン・ドラマ」が作ったユートピアから圧力の解消を求めていることが明らかになった。